

令和6年度
施政方針



粕屋町

1. はじめに

本日、ここに令和6年度の予算案をはじめ、関係諸議案のご審議をお願いするにあたり、町政運営に関する所信の一端を申し上げますとともに、予算案及び重点施策の概要をご説明いたします。

はじめに、元日に発生した能登半島地震で亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被害を受けられた皆様に心からお見舞い申し上げます。粕屋町は、1月6日、石川県鹿島郡中能登町に飲料水のほか、粉ミルク、紙おむつ、生理用品などの支援物資を届けました。現在、被災地から本町に避難される方への支援や義援金の受付を行っています。今後も、被災地の一日も早い復旧・復興のために尽力してまいります。

昨年を振り返りますと、5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の取扱いが季節性インフルエンザと同じ5類へ移行しました。3年余りに及ぶ制限が解かれ、社会経済活動の正常化が進むなど、以前のような日常を取り戻しつつあります。中止や延期を余儀なくされていた町民運動会をはじめとした多くのイベントを制限なく開催することができ、改めて人と人との交流の大切さや素晴らしさを痛感しております。

7月には九州・熊本地方を中心に線状降水帯による大雨が発生し、またもや各地に大きな被害をもたらしました。本町から被災した広川町に都市政策部の職員2名を派遣し、家屋被害調査にあたりましたが、目に見える形で進んできている気象災害の激甚化・頻発化に対して、より一層の備えが必要であると強く認識いたしました。

11月には嬉しいことがありました。長年、フレンドリータウンとして応援しております、J1リーグのアビスパ福岡が、国内のサッカー三大タイトルの一つであるYBCルヴァンカップを制し、見事クラブ史上初となる栄冠を勝ち取りました。1996年のJリーグ参入以来、28年目にして手にする悲願の初タイトルに、福岡の地が大きな歓喜に包まれました。

政府が発表した経済見通しによると、我が国の経済はコロナ禍の3年間を乗り越え、改善しつつあるとされており、物価高対策や持続的賃上げなどによる「デフレ完全脱却策」を掲げて経済の立て直しを急いでいます。一方で、ウクライナ侵略、イスラエル・パレスチナ情勢などの国際情勢は予断を許さない状況が続いています。さらに今年は、米国大統領選をはじめ、アジア、欧州などでも重要な国政選挙が行われる「緊迫の一年」と言われております。

国立社会保障・人口問題研究所が12月に公表した 2050 年までの地域別の人口推計によると、九州7県の全 233 市町村の約 96%で人口が減少する一方で、人口増は福岡市と周辺自治体、熊本市のベッドタウンなどの計10市町にとどまり、粕屋町はその10市町の中でトップの増加率となりました。人口減少時代の日本において、明るい兆しにも見えますが、市制を目指す本町としては、過去の推計結果よりも増加幅が減少し、ピークアウトも早まるなど、必ずしも望ましい結果ではありませんでした。

粕屋町にはまだ隠れた魅力がたくさん埋もれております。一つひとつを丁寧に掘り起こしながら、町の認知拡大やイメージアップを図り、今回の結果を最低限のノルマとして達成できるよう取り組んでまいります。

日本を代表する経営者の一人、京セラや第二電電(現 KDDI)の創業者で、日本航空の再建に尽力された故稲森和夫氏が、生前に残された教訓のひとつに「現在の姿は過去の努力の結果であって、今を生きる我々が自ら考え、自ら努力して未来への道を創っていく」という言葉があります。VUCA^{※1}の時代と言われる世の中においても、職員が失敗を恐れず勇気をもってチャレンジできる環境を整え、共に新たな粕屋町の発展に向けた一歩を踏み出してまいります。

※1 VUCA(ブーカ):Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性)という 4 つの言葉の頭文字をとった造語で、先行きが不透明で、将来の予測が困難な状態。

2. 令和6年度 予算案

それでは、令和6年度の予算案についてご説明いたします。

まず、歳入について、根幹となる町税収入は、固定資産税を中心に堅調に伸びると見込んでいますが、個人町民税の定額減税の実施により約2億円の減収となり、前年度から微増にとどまる見込みです。なお、この減税による減収分は地方特例交付金として全額補てんされることとなります。臨時財政対策債を含めた地方交付税については、地方財政対策を踏まえ、減少を見込んでいます。寄附金については、ふるさと納税の伸びにより増加を見込み、国庫支出金については、低所得者支援及び定額減税を補足する給付の実施により大幅な増加としています。町債については、引き続き個別施設計画に基づく公共施設の改修をはじめとする多数の事業を予定していますが、事業の完了により大幅な減少としております。

歳出については、定額減税を補足する給付の実施などにより総務費が増加、柚須文化センター長寿命化改修工事や低所得者支援として行う給付の実施などにより民生費が増加しています。一方で、土木費については、仲原川改修工事の完了や朝日団地第1期建替工事費の減少などにより減少しております。また、教育費については、仲原小学校及び粕屋西小学校

校舎増築工事の完了、総合体育館の大規模改造工事の完了などにより減少としております。

なお、財源不足を補うため、財政調整基金から4億400万円の繰入れを計上するとともに、ふるさとづくり寄附金の寄附者の意向を反映し、ふるさとづくり基金から5億6,126万2千円を繰り入れています。

予算規模については、

一般会計	212億 5,600万円
特別会計	72億 9,039万6千円
企業会計	36億 6,944万3千円
予算総額	322億 1,583万9千円

となっております。

これは、一般会計が、前年度比プラス5.3%で10億7,600万円増加し、3年連続で200億円を超える過去最大の予算規模となりました。特別会計と企業会計を合わせた総額では、前年度比プラス5.3%、16億945万7千円の増となります。

少子高齢化の進行、地球温暖化対策や大規模災害への対応など山積する諸課題に対し、地方自治体に求められる役割は今後も増大していくと予想されます。また、市制を目指す本町としましては、市制施行に耐えるだけの基礎的な体力を高めるための取組が必要です。

このような状況下における新年度予算では、堅調に伸びている税収やふるさと納税などの自主財源の確保を背景に、公約実現に向けた取組に加え、市制対策、自治体 DX^{※2}、GX^{※3}の推進、物価高騰支援やインフラ整備などの我々を取り巻く行政課題・地域課題を踏まえた必要な予算を盛り込み、過去最大の予算規模となる積極型の予算を編成しました。

一方で、取り組むべき課題に的確に対応しながらも財政調整基金からの繰入れを前年度から減少させるなど、財政規律にも配慮した予算としております。

※2 DX:Digital Transformation の略でデジタル技術を浸透させることで人々の生活をより良いものへと変革することや、既存の価値観や枠組みを根底から覆すような革新的なイノベーションをもたらすものこと。

※3 GX:Green Transformation の略で化石燃料をできるだけ使わず、クリーンなエネルギーを活用していくための変革やその実現に向けた活動のこと。

3. 町政運営の方針

それでは、公約に沿って、重点施策の概要についてご説明いたします。

子育てしやすいまちづくり

4月に、全ての妊産婦、子育て世帯、子どもへ一体的に相談支援を行う「こども家庭センター」を開設いたします。核家族化や地域社会の変容などを背景に、子育てに困難を抱える家庭が顕在化してきています。母子保健・児童福祉の両機能の連携を深め、個々の家庭に応じた支援を切れ目なく、漏れなく対応し、地域のリソースや必要なサービスと有機的につないでいくソーシャルワークの中心的な役割を担ってまいります。

「こどもまんなか社会」の実現、そして、粕屋町のこどもと家庭を強力に支援する「子育て応援都市かすや」を実現するため、その中核拠点となる第2こども館の建設候補地の選定を進めてまいります。

去年は7月の世界の平均気温が観測史上最高となり、日本でも猛暑日が続き、気温が40℃を超える地域も増えてきました。児童生徒の熱中症対策や災害発生時における避難所の生活環境改善のため、小中学校体育館の空調設備工事を行います。また、粕屋中央小学校第4期大規模改造工事や粕屋中学校体育館第1期大規模改修工事など、未来の粕屋町の子どもたちのため、より良い教育環境づくりを進めてまいります。

住みやすいまちづくり

移動の利便性向上、既存の公共交通機関の維持・活性化、高齢者の外出機会の創出など、持続可能な地域公共交通の確保に向け、モビリティサービスの新たな導入や拡充を図るとともに、交通結節点としての機能を高めるため、粕屋町主要駅の整備方針の検討を進めてまいります。

都市計画道路について、昨今の社会経済情勢の変化を踏まえ、計画決定当時における必要性や位置づけに変化が生じている路線や、長期にわたり事業未着手となっている路線に関し、適切な見直しを行う必要があるため、道路完成時の将来交通量推計と現状の交通実態調査を行います。

誇れるまちづくり

昨年4月に市制対策室を設置し、市制に向けたシティプロモーションの取組を開始しました。新たなプロモーション動画を製作し、SNSを通じて町の魅力を発信するほか、生活動線上にあるため認知拡大に効果が高い交通広告の掲出を行います。また、今年はパリ2024夏季オリンピックが開催される年であります。男子プロバスケットボールリーグ、Bリーグのライジングゼファー福岡とパートナーシップを結び、プロスポーツチームと連携したプロモーション活動や、小中学生をはじめ町民の皆様を招待して粕屋町応援デーを開催します。

5月に開催されるバラまつりは、今年で20周年を迎えます。昨年は多くの方が来場され、非常ににぎわいました。須恵高校書道部の書道パフォーマンスの作品のとおり、今後も人々の心を魅了する神秘の花「かすやの薔薇」が私たちの幸せな日々を美しく・鮮やかに彩ってくれることを願いつつ、さらなる魅力向上とにぎわいづくりを進めてまいります。

安心して生活できるまちづくり

改正道路交通法の施行により、全ての自転車利用者のヘルメット着用が努力義務となっています。ヘルメット着用促進に向けた取組を早期に加速し、自転車乗用中の交通事故被害軽減を図るため、自転車乗車用ヘルメットの購入に対し、補助を実施いたします。

近年、地震や集中豪雨などにより多くの農業用ため池が被災し、甚大な被害が発生しています。このような農業用ため池の決壊による被害を未然に防ぐため、谷蟹池耐震対策工事を行います。

緊急情報などを迅速かつ確実に町民の皆様へ伝える情報伝達手段を確保するため、防災行政無線更新の実施設計を行います。

学校給食費の食材費については、物価高騰の影響により、やむを得ず令和6年度から給食費の値上げを実施いたしますが、急激な負担増を抑制するため、1年間値上げ相当分を補助いたします。

次に、第5次粕屋町総合計画に掲げる4つのまちづくり基本目標に沿って、主要な事務事業の内容を申し上げます。令和6年度は合計137の事務事業の実施を予定しています。

[基本目標1] つながりと交流を深め、心豊かな人を育む協働のまち

令和6年度は予算額44億7,521万8千円を計上し、39事務事業の実施を予定しています。

- 粕屋町では、中学生の英語の学力向上、国際コミュニケーション能力の育成を図るため、英語検定(英検)検定料の半額助成をしております。令和6年度からは、さらなる生徒の学習意欲の向上、受験機会の拡大を図るため、中学3年生の英検3級検定料を全額助成いたします。
- 昨年の大川小学校に続き、仲原小学校において創立150周年記念事業が開催されます。開校して以来、時代の波を乗り越えながら数多くの人材を輩出し、輝かしい伝統を築いてきました小学校の記念すべき節目を町民の皆様と一緒に祝いいたします。
- 公共施設等個別施設計画に基づき、昭和53年(1978年)に建築され46年経過した柚須文化センターの長寿命化改修工事を実施いたします。

- 図書館の貸出・返却のセルフ化による待ち時間の解消やプライバシー保護による利便性向上、職員のカウンター業務や蔵書点検作業の業務効率化を図るため、図書館ICタグシステムの導入を行います。

[基本目標2] 都市と自然が調和し、快適に暮らせる活力あるまち

令和6年度は予算額 31 億 9,174 万1千円を計上し、27 事務事業の実施を予定しています。

- 駕与丁公園施設長寿命化計画に基づき、令和6年度は園路舗装、柵、遊具、トイレ改修工事を実施いたします。また、公園利用者の利便性向上のため、駐車場整備を進めてまいります。
- 高齢者や障がいのある方、小さな子どもを連れた方など、誰もが安心して利用できるユニバーサルデザインに配慮し、屋根に太陽光発電設備を設置することで、ゼロカーボンを推進する公園トイレを整備します。令和6年度は柚須公園のトイレ建替えを行います。
- 公用車への電気自動車(EV^{※4})や燃料電池自動車(FCV^{※5})の導入を引き続き行うとともに、公共施設への電気自動車充電設備設置に向け、事業者との協議を進めてまいります。

※4 EV:Electric Vehicle の略で、電気自動車のこと。自宅や充電スタンドなどで車載バッテリーに充電を行い、モーターを動力として走行する。

※5 FCV:Fuel Cell Vehicle の略で、燃料電池自動車のこと。燃料電池は水素と酸素の化学反応から電力を取り出す発電機構で、これで得られた電力をモーターへと送り、動力として走行する。

- 商工会と連携し、個人消費と地域経済の回復を下支えするため、かすやよかつ Pay(粕屋町プレミアム付キャッシュレス商品券)事業、かすやの送って“うれシート”事業を継続して実施いたします。

[基本目標3] 誰もが安心して幸せに暮らせるやすらぎのまち

令和6年度は予算額 155 億 2,138 万7千円を計上し、45 事務事業の実施を予定しています。

- 帯状疱疹ワクチン予防接種の費用助成を本年1月から開始いたしました。帯状疱疹は過労やストレス等による免疫力低下などが原因で発症し、50 歳以上から発症率が高くなると言われています。発症及び重症化の予防を図るとともに、経済的負担の軽減を図ります。
- 子育て世代に安心して医療を受けられる機会を提供し、経済的負担を軽減することを目的として、4月から子ども医療費の中学生までの入院医療費の自己負担をなくし、小学1年生から中学3年生までの通院医療費の自己負担額を月額 500 円に減額いたします。
- 朝日団地の建替工事を実施するほか、内橋団地のガス管及び給水管改修工事を実施し、施設の居住性や安全性などの維持・向上に努め、住宅団地の再生を進めます。

[基本目標4] 健全で持続可能な行政経営をめざすまち

令和6年度は予算額 27 億 1,535 万9千円を計上し、26 事務事業の実施を予定しています。

- 第5次総合計画及び第2期総合戦略が令和7年度までに終期を迎えることから、両計画を一体化した第6次総合計画の策定を進めます。計画の策定にあわせて組織機構改革や BPR^{※6}(業務改善)を実施し、将来の市制を見越した実行性がある総合計画の策定に取り組みます。
- 本格化する自治体情報システム標準化・共通化の移行作業をはじめ、デジタルを活用した地域の課題解決や魅力向上に向けた先導的なデジタル実装の取組を進めます。
- 全国のコンビニエンスストアなどに設置されているマルチコピー機を使って、簡単な操作で各種証明書が取得できる、証明書コンビニ交付サービスの手数料 10 円キャンペーンを来年3月まで延長いたします。

以上、令和6年度の町政運営の方針を申し述べました。

※6 BPR: Business Process Re-engineering の略で、業務の目的を達成するために、既存の業務体系や制度などを根本から見直し、再構築すること。

4. おわりに

新型コロナウイルス感染症がようやくその勢いを弱め、まちのにぎわいや地域のコミュニティ活動などが少しずつ平時の様子を取り戻し、コロナ禍以前の活気が出てきたことを喜ばしく思います。その反面、物価上昇の長期化の中で、国民の暮らしと事業活動は重大な影響を受けています。次々と迫る難局を克服し、Well-Being^{※7}な未来に向けたまちづくりを進めるため、令和6年度も様々な重要課題に意欲的に取り組んでまいります。

町民の皆様、そして、ここにお集まりの議員各位におかれましては、なお一層のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。令和6年度の施政方針とさせていただきます。

令和6年3月

粕屋町長 箱田 彰

※7 Well-being(ウェルビーイング):幸福で肉体的、精神的、社会的全てにおいて満たされた状態。